

Sバス東郷線の運行の見直しについて

【経緯】

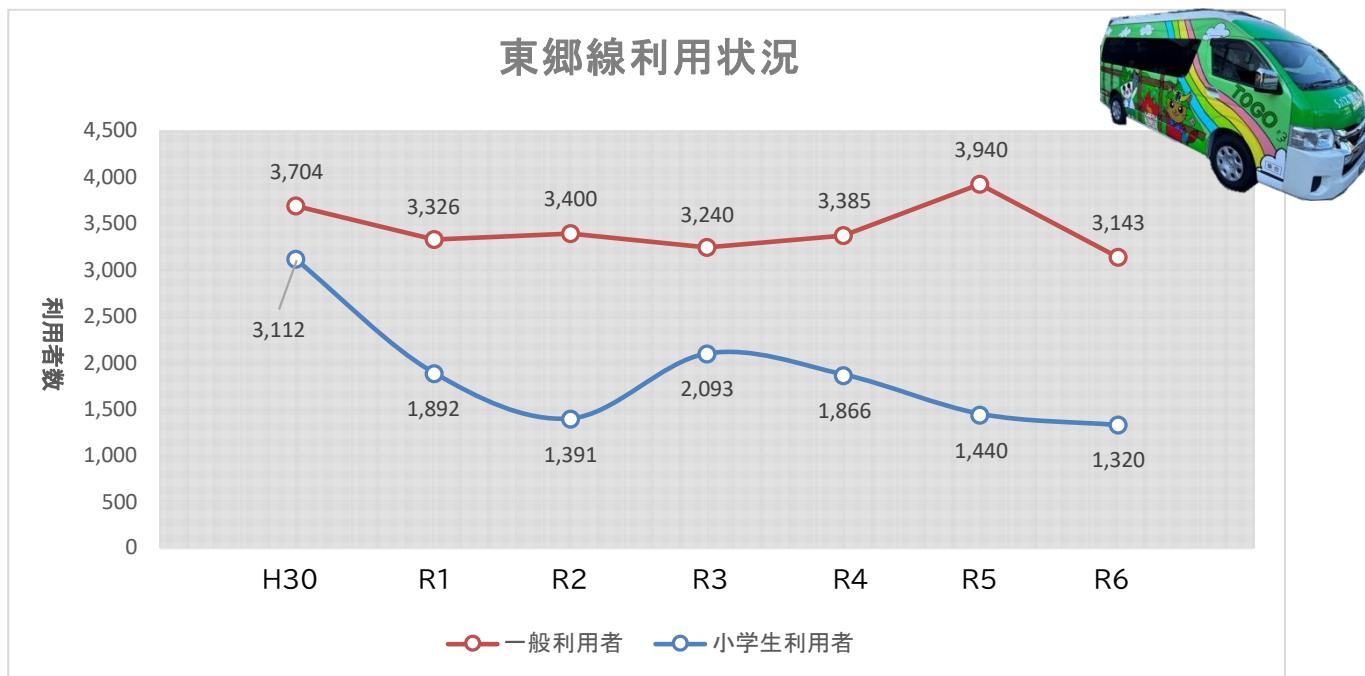
Sバス東郷線の主な運行区域である東郷地域自治区では、高齢者への支援対策を重要な課題として、「東郷地域計画」に位置付けている。

その一環として、高齢者のおでかけ促進や買い物等困難者の解消を図り、高齢者が安心して暮らしやすい地域を目指し、令和2年度に、移動手段の確保のための施策検討や事業提案を行う地域住民を主体とした検討組織「東郷地域の足を考える会」を発足した。

高齢者や親子世代への全世帯アンケートや、各地域のミニディで直接の声を聞きながら、地域の実情に合った移動手段の確保について議論を行ってきた。

【Sバス東郷線の概要】

路線名	東郷線
運行形態	運行方法：定時定路線運行
運行時間帯	午前7時台～午後5時台
運行日	月曜日～金曜日（土曜、日曜、祝日、振替休日及び12月29日～1月3日まで運休）
運行本数	1日往復5回（1便・5便是スクールバスとしても利用）
バス停数	30か所（東郷地区内は21か所）
料金体系	大人：200円 小学生・障がい者：100円
運行事業者	豊鉄タクシー株式会社
市の関与	豊鉄タクシー株式会社との運行業務委託契約
運行車両	9人乗りハイエースを使用（R5にラッピング実施：地域自治区予算）

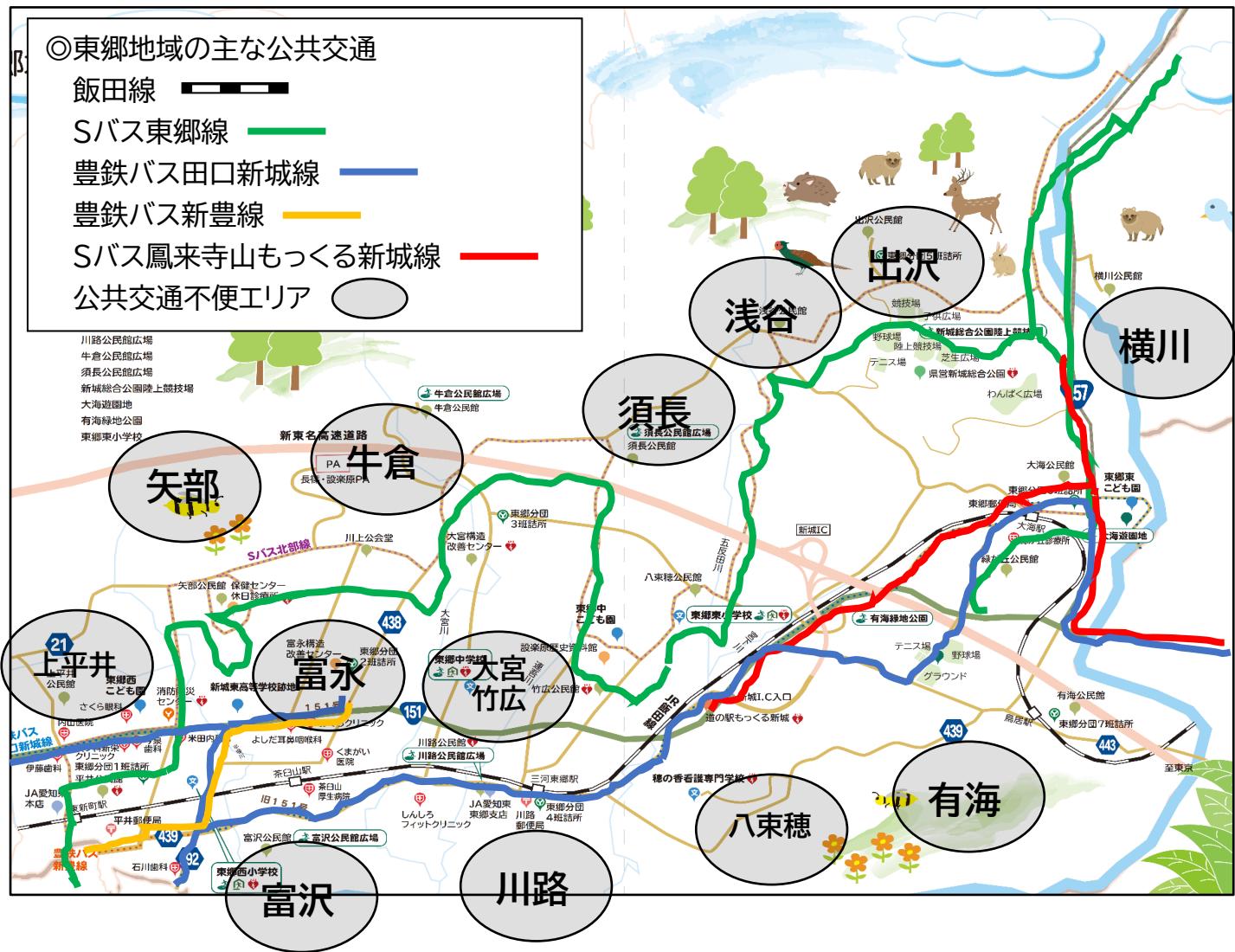


年間利用者数推移（全体）	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
	6,816	5,218	4,791	5,333	5,251	5,380	4,463

【東郷地域の主な公共交通の現状】

東郷地域内を運行している主な公共交通として、「Sバス東郷線」、「豊鉄バス田口新城線」、

「豊鉄バス新豊線」、「Sバス鳳来寺山もっくる新城線」、「JR 飯田線」がある。



東郷地域は面積が広大であり、バスが通っていない山の上に集落がある地域が多く、また、自宅からバス停までが遠く、利用したくても利用できないという声も多数あった。

一見すると、公共交通機関が充実しているように見えるが、地理的な不便さが実はあり、地域の足に困っている方が多いということが分かった。

【Sバス東郷線の見直し方向性】

東郷地域の全世帯に行ったアンケートでは、Sバス東郷線に求める条件として、

- ①自宅からバス停までの距離が近い。
- ②便数がたくさんある。
- ③乗り換えが少なく目的地まで早く行ける。

これらをすべて叶えることは難しいので、最優先ポイントはどれか、という質問に対し、

「①自宅からバス停までの距離が近い」が最も多い結果だった。

東郷の足を考える会で議論した結果、定時定路線方式では、公共交通を利用したくても利用できない地域があり、バス停を設置してカバーしたいが、東郷地域は広いので、色々なところを周り、まちなかまで行くのに時間がかかる。こうしたことから、「公共交通不便エリア」を無くし、東郷地域に住んでいるすべての方が足に困らないようにするために、Sバス東郷線は、地区内の好きなところにバス停を置けるようにし、定時定路線の運行方式を廃止し、区域運行方式により運行していくという方向性となった。

また、足を考える会の議論を進めていく上で、以下のポイントを重視した。

(1) 東郷東小学校のスクール利用を最優先に

小学校の下校パターンは2限から6限の5パターンあり、これまでには、頻度が高い5限および6限にのみ対応するダイヤとなっており、その他2～4限は保護者が迎えに行ったり、学校で宿題をやるなどして待機し次便で乗車するなどの対応をしていた。

足を考える会として、東郷線を検討していくにあたり、小学校の子ども達を最優先に考えたいという方向性を決めたので、すべての下校パターンをカバーできるようなダイヤをめざす。

(2) 長篠西エリア拡大

特に、東郷東エリアでは、こんたく長篠など長篠西エリアを生活圏としている方が多かったため、東郷地域と長篠西地域を行き来できるルートも新設する。

併せて、長篠橋の通行止めに伴い、豊鉄バス田口新城線水上バス停を廃止した影響により、その周辺地区住民の公共交通利便性が低下しているため、旧水上バス停周辺も東郷線を利用できるようにしたい。

(3) 設楽原歴史資料館と長篠城址史跡保存館をつなぐ

鳳来寺山もっくる新城線で、長篠城址史跡保存館に行くことができるが、設楽原歴史資料館には行けない。関連の深い両施設を東郷線でつなぎ、観光客の誘客や交通利便性の向上に努めたい。

【Sバス東郷線路線図及び東郷地域の現状】



【Sバス東郷線見直し案】

路線名	東郷線
運行形態の概要	(変更前) 運行方法：定時定路線運行を廃止 (変更後) 運行方法：区域運行（運行区域の設定）
変更理由	利用状況及び地域住民との協議を踏まえ、運行の効率化を図るとともに全地域住民が利用できるようにする。
運行時間帯	午前7時台～午後5時台
運行日	月曜日～金曜日 (土曜、日曜、祝日、振替休日及び12月29日～1月3日まで運休)
運行本数	(変更前) 1日往復5回 (変更後) 1日往復6回
バス停数	(変更前) 30か所 (変更後) 142か所の指定乗降場所 一部予約によるデマンド方式 ※別紙のとおり
料金体系	大人：200円 小学生・障がい者：100円
運行事業者	豊鉄タクシー株式会社（予約受付を含む）
予約方法	電話または予約システム「ロコバス」による
予約受付時間	利用日前日の16時まで（前日が運休日の場合はその前日）
市の関与	運行業務委託契約
運行車両	1台（9人乗りハイエース）
路線概要図	別紙のとおり

【経緯・予定】

- 令和 7年 5月13日 東郷区長会で運行方向性を共有
- 7月15日 東郷区長会を通じ乗降場所の選定を依頼
- 11月 6日 東郷の足を考える会で実証実験運行を実施①
- 11月 9日 東郷の足を考える会で実証実験運行を実施②
- 12月11日 新城警察署とすべての乗降場所の安全確認
- 12月22日 新城市地域公共交通会議での協議
- 令和 8年 1月13日 東郷区長会及び長篠西区を通じ18行政区で説明会開催調整
- 2月～3月 Sバス東郷線の運行方法及び予約方法についての説明会実施
- 4月 1日 運行開始予定

令和8年4月以降

公共交通対策課と東郷の足を考える会が連携し、必要に応じて運行方法及び予約方法についての普及活動を実施するとともに、乗降調査や利用状況のモニタリング等を通じて、指定乗降場所の見直しや利用促進策についても行っていく。